

令和5年度事業評価書（令和4年度事業）

評価事項	評価項目	評価	評価内容
教養文化の向上	量的な視点からサービスは適切に行われたか。	適切に行われた ほぼ適切に行われた 適切とは言えない。	新型コロナウイルスの感染状況の収束に伴い、前年度実績を大きく上回る事業を年間で開催でき、新規事業やアウトリーチ活動の展開も含めて、コロナ禍以前の水準となっていた。また、80周年記念事業と関連した事業展開も行ってきた。
	質的な視点からサービスは適切に行われたか。	適切に行われた ほぼ適切に行われた 適切とは言えない。	地域創造に関わる従来はなかった新規事業を企画・実施し、また、80周年記念事業においては、ストーリー性を念頭に置いたつながりのある事業を企画・実施するなど、価値の創造・向上を伴う質の高い事業が実施された。
	地域的な広がり、維持が適切に行われたか。	適切に行われた ほぼ適切に行われた 適切とは言えない。	地域の小中学校との連携や、地域人材の発掘・活用を展望した事業だけでなく、父親参加を含めた親子事業など、地域の子育て支援も視野に入れた様々な事業が企画・実施された。
	ステップアップ促進が適切に行われたか	適切に行われた ほぼ適切に行われた 適切とは言えない。	ダンスや演劇など、アートと地域が結びついた事業や、地域の方々の成果を発表する機会の創出など、昨年度までの実績をもとに充実した事業が発展的に企画・実施された。
情報発信	量的な視点から適切に情報発信が行われたか。	適切に行われた ほぼ適切に行われた 適切とは言えない。	「あすと子ども通信」やチラシ・ポスターといった紙媒体と、ホームページやSNSを最大限に活用し、随時積極的に種々の情報が発信された。
	質的な視点から適切に情報発信が行われたか。	適切に行われた ほぼ適切に行われた 適切とは言えない。	紙媒体やSNS等の情報発信の際に、デザインにも工夫を凝らし、見やすさ等を心がけ、情報受信者からも評価が高かった。
	情報発信の方法は、適切であったか。	適切に行われた ほぼ適切に行われた 適切とは言えない。	種々の媒体を最大限に用いて、ニーズに対応した情報の発信を行ってきた。
地域支援	量的な視点から適切に地域支援が行われたか。	適切に行われた ほぼ適切に行われた 適切とは言えない。	地域支援団体やアーティストに対して、充実した活動の機会を提供してきた。
	質的な視点から	適切に行われた	充実した活動の機会を保障すべく、種々

地域支援	適切に地域支援が行われたか。	ほぼ適切に行われた 適切とは言えない。	の手立てを講じて支援してきた。
	地域支援の方法は、適切であったか。	<u>適切に行われた</u> ほぼ適切に行われた 適切とは言えない。	多様な発信媒体を最大限に活用しながら広報活動を行い、事業開催に関して協力・連携支援した。
市民ニーズへの対応	市民ニーズの把握と満足度向上への取り組みは適切に行われたか。	<u>適切に行われた</u> ほぼ適切に行われた 適切とは言えない。	事業ごとにアンケートを実施してニーズを把握し、それに基づいて事業主催者らとミーティングを行い、協議を通して事業の改善に活かしてきた。また、SNSをコミュニケーションツールとして最大限に活用することで、ニーズの把握や問い合わせの対応にも努めた。
事業計画とコンセプトとの整合性	策定された事業計画は、文化の自分化創造館を実現する・具体化する取り組みとして適切であったか。	<u>適切</u> ほぼ適切 適切ではない	地域文化芸術活動の拠点構築だけでなくそうした活動に関する情報の発信にも努めた。また、次世代を担う人材を育成する事業の定着を図るべく、アートを核とした地域の価値創造につながる事業も企画・実施した。
	策定された事業計画の実施によって具体的な成果（アウトカム）が上がっているか。	<u>上がっている</u> どちらとも言えない。 上がっていない。	多彩なダンス活動に加えて、地域のアーティスト支援など、アーティストの活動拠点としての認知が高まっている。
	PFI 事業者の実施体制は、文化の自分化創造館を実現する・具体化する取り組みとして適切であったか。	<u>適切</u> ほぼ適切 適切ではない	地域の価値創造に向けて、アートとの関連性を重視しながら、適切かつ安定した予算執行と人員配置を行い、事業計画の策定・実施をマネジメントしてきた。

事業についての講評

コロナ禍が収束に向かっていくなか、これまで中止等余儀なくされてきた事業が様々な形で復活ないし新規として実施され、昨年度以上に、アートを通じた事業の推進がより一層顕著となっていた。また、昨年指摘されていた産業との関わりも視野に入れた取り組みも、地域の方々との交流の機会もできるだけ確保しながら展開されており、充実と発展的な持続に腐心されている様子が窺える。

今後は、学校教育と社会教育との連携の視点も盛り込みながら、泉大津のこうした特色を資産として活かす取り組みが、より一層積極的に展開されることを願っている。

PFI 事業者への提言、提案など

特に大きな問題点や課題点等は見受けられなかった。次の10年間を展望した今後の事業展開に向けて、これまでと同様、評価やフィードバックに基づいた事業計画・実施の推進をお願いしたい。